

町内の会社 紹介します

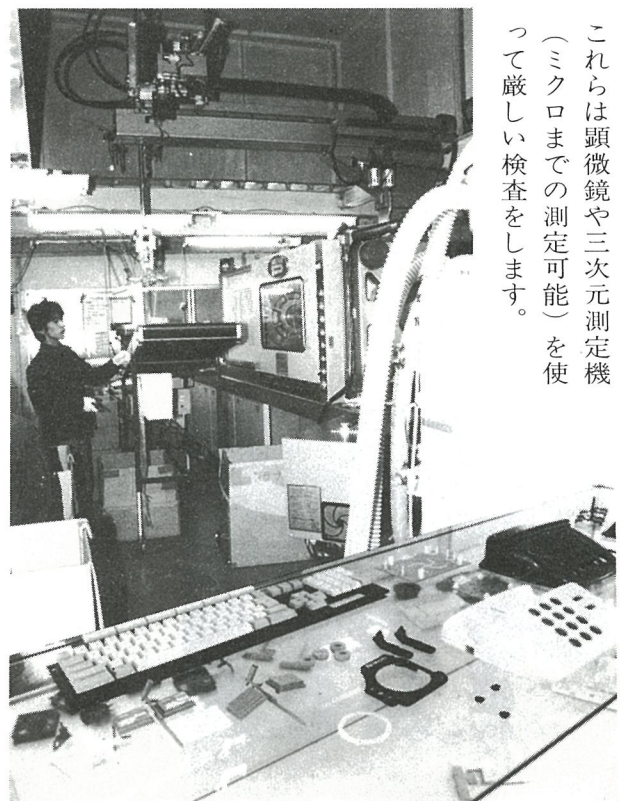
株式会社 阿部成型
所在地 谷 中
代表取締役社長 阿部 悦行氏

株式会社阿部成型は、OA機器、八ミリビデオ、カメラ、電話器、自転車など、さまざまな分野のエンジニアリングプラス

チック部品の成型をしている会社です。

まず、ペレット（米粒大のプラスチック材料）の湿気を除湿乾燥機で取り除き、加熱筒に入れて溶かします。溶けたプラスチックを金型部分に送り込むと製品ができ上がります。この作業はすべてコンピュータ制御で検査機巧も兼ね備えた機械で行なわれ、規格外の物ができ上がった時には止まる仕組みになっています。この会社で使う金型は全て阿

部工作所で作られたもので、①製品の依頼を受ける。②それに合った金型を阿部工作所で作る。③できた金型を使って阿部成型で製品にし依頼主に納める。このような流れになっています。ここで作る部品は外観物と内挿物に分けられます。外観物ほどでき上がりがきれいではないかもしれませんが、材料に異物が入らないように、また、指紋、しみ、汚れが付かないように注意します。内挿物は特に正確さが要求されます。一センチメートルにも未たない小さな部品もあり、



これらは顕微鏡や三次元測定機（ミクロまでの測定可能）を使って厳しい検査をします。

町長 ひとごと

小さな仲間

町長室の横窓に、一羽のはぐれバトが住みつくようになってから、一年以上がたつ。はじめの頃は、役場のまわりに時々遊びに来るでいどであったが、帰るところを忘れたのか、役場が住みよいとみたのかは分らないが、いつしか終日役場から離れなくなつた。役場の上空を飛び廻ったり、時折、窓際において

斉藤 譲

きてキヨロ、キヨロと室内の様子をうかがう仕種が、とてもかわいかったので、横窓に小さな餌箱を置いて餌を与えてみた。するとハトは、待っていましたとばかりに寄ってきて、餌を啄ばみ、その日からここが住処となつた。ハト君の世話役は、総務課の岩瀬女史の役割りとなつたが、毎朝彼女が窓を開けるのを待ちかねたように飛びこんでくるのである。食欲は常に旺盛

で、買ってくる餌の減りも早い。おまけに副産物の糞も、窓際にたつぷりと残していくので、彼女はいつもブツブツと文句をいながら掃除をするのである。しかし、ハト君は一向に平気で餌を食べ終ると見晴らしのよい庁舎の屋上で、まず羽繕いをし、それが終わると徐に周囲を見廻すのである。まるで役場は、自分が支配する縄張りであるかのような威厳をもって、その姿は、とても頼ましくもあり、一種の風格さえ感ずるのである。だから、広場においてチョコ、チョコと歩き廻っている時などに、人や車が側を通っても一向に動ずる様子もない。こんな時私は、

もしかしたらこのハト君の方が私よりはるかに度胸も自信も大きいのではないかと思えて、苦笑することがある。ところで、このハト君は、どんな種類に属するのか、また雄なのか雌なのかも私には分らない。ある時、わがハト君は、数羽のハトを引きつけて意気揚揚として帰ってきた。白や茶色のきれいなハトであった。彼等の間をしきりにポロロ、ポロロと鳴きながら得意のポーズをつくるわがハト君は、あたかも自分の実力を私達に誇示しているようであり、とても頼もしく貫禄がある。いよいよわがハト君にも子分ができ

て、ことによるとこの中に、意中の相手もいるような気がした。「ハトが、これ以上増えたら困りますよ。」と職員は口々にいう。どこのお寺や公園にも、沢山のハトがいる。なのに、不思議と役所にハトがいるという話を余り聞いたことがない。役所はどこも雰囲気がお堅くて、きつとハトも寄りつきにくいのである。私は、ハトが寄り集まるろう。私は、ハトが一興ではないかと思いい内心秘かにもっと増えることを期待していた。ところが、暫くするうちにどうした訳か、今まで来ていたハト達が、全く姿を見せなくなり、わがハト君だけが一羽とり残された。いまわがハト君は孤独であり、心なしか近